

単元の指導計画

単元名

歌謡曲の世界観を短歌で表現しよう

本実践における「世界観」の定義

「ある歌謡曲で表現されていることを生徒自身が解釈したものと定義づける。たとえば、「時代」という歌謡曲では「作者の中島みゆきは〇〇というメッセージを込めている、□□という世界が表されていると、自分が考えたものが「世界観」となる。

はじめに

本実践では、生徒が短歌を創作し、それをグループ内で相互に鑑賞・批評し合うことで、最初に創作した短歌を改善するといった学習活動を取り上げる。その意義について述べる。

本校のスクール・ミッションにある創造性を発現するための土台としての「表現力」を育成できているかといったことが、授業者自身の課題意識として挙げられる。

新しい学習指導要領では、育成すべき資質・能力の一つとして「思考力・判断力・表現力等」が位置付けられているが、高校段階では「書くこと」の領域を独立した単元として指導することが十分に行われていない現状がある。「書くこと」の領域では、指導者側は評価に客観性を持たせることに困難を覚え、それが「書くこと」を単元に組み込むことをためらわせる大きな要因になっていると考えられる。

また、「書くこと」の学習活動を単元に組み込んだとしても、それは小論文指導に代表されるように、論理的に他者に伝えることに主眼を置いたものに偏るきらいがある。現行学習指導要領の国語総合「B 書くこと」の言語活動には、「詩歌や随筆などを書く」ことも取り上げられているが、こうした創作的な活動に関して、①指導者側が指導のノウハウをもっていない、②客観的な評価を困難と感じている、といった点から、指導で扱うことを避ける傾向があると思われる。

しかし、新しい学習指導要領では「言語文化」や「文学国語」といった科目が新設され、創作に関わる指導も含めて「書くこと」の授業時数が定められた。また、学習評価において、生徒の学習状況を分析的に捉える観点別学習状況の評価をより充実させることが求められる。こうした状況を踏まえると、〈創作から相互批評を経て自己の表現の改善につなげる〉といった学習過程を生徒に経験させ、その過程を分析的に評価する本実践は、授業者自身の課題意識を解消する一助となるとともに、今後の高校国語教育にとっても時宜にかなったものであると考える。

1 単元の目標

- (1) 優れた表現に接して、その条件を考えたり、書いた文章について自己評価や相互評価を行ったりして、自分の表現に役立てるとともに、ものの見方、感じ方、考え方を豊かにしようとする。
[関心・意欲・態度]
- (2) 優れた表現に接して、その条件を考えたり、書いた文章について自己評価や相互評価を行ったりして、自分の表現に役立てるとともに、ものの見方、感じ方、考え方を豊かにする。
[書く能力] B(1)エ
- (3) 文や文章の組立て、語句の意味、用法及び表記の仕方などを理解し、語彙を豊かにする。
[知識・理解] [伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項] (1)イ(イ)

2 本単元における言語活動と教材

言語活動：歌謡曲の世界観を短歌で表現し、他者からの批評を受けることで、表現意図がより伝わる短歌に詠みなおしをする。

教材：プレゼンテーションソフトを使用して作成した資料、ワークシート

3 単元の評価規準

関心・意欲・態度	書く能力	知識・理解
表現の仕方についての批評を通して得たことを、語句の選び方を工夫することに生かし、意図がより伝わる表現として記述しようとしている。	表現の仕方についての批評を通して得たことを、語句の選び方を工夫することに生かし、意図がより伝わる表現として記述している。	短歌の創作に適した表現の仕方や語句の使い方などがあることについて理解している。

なお、本実践を新しい学習指導要領における科目「言語文化」に当てはめると、次のように評価規準を設定することができる。

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
本歌取りや見立てなどの我が国の言語文化に特徴的な表現の技法とその効果について理解している。(1)オ)	「書くこと」において、自分の体験や思いが効果的に伝わるよう、文章の種類、構成、展開や、文体、描写、語句などの表現の仕方を工夫している。(A(1)イ)	短歌の創作を通して、粘り強く、自分の思いが効果的に伝わるよう、表現の仕方を工夫する中で、自らの学習を調整しようとしている。

4 指導と評価の計画（全7時間）

次	主たる学習活動	評価する内容	評価方法
1	○単元の目標や進め方を確認し、学習の見通しをもつ。 ○短歌の創作についての要点を知る。	[知識・理解]	「行動の確認」
2	○自分の好きな歌謡曲を選ぶ。 ○好きな歌謡曲の世界観を短歌で表現する。	[知識・理解]	「記述の確認」
3	○創作した短歌をグループで相互に批評し合う。	[書く能力]	「行動の観察」
4	○相互批評で得た助言をもとに、第2次で創作した短歌を詠みなおす。 ○第2次で創作した短歌から、他者の批評を受けどのような意図で変えたのかを記述する。	[書く能力] [関心・意欲・態度]	「記述の分析」 「記述の確認」

【単元の流れ】

次	学習活動	指導上の留意点	評価規準・評価方法等
1 (3単位時間)	<p>○単元の目標や進め方を確認し、学習の見直しをもつ。</p> <p>○例示された短歌をもとに、創作に関する要点を知る。</p> <p>○共通の歌謡曲をもとに、そこから感じたことをクラスメイトに伝えるという想定で、短歌で表現してみる。</p> <p>○他者の創作した短歌に対して、改善点及び改善案をそれぞれ考える。</p> <p>(※)マインドマップとは、思考ツールの一つで、頭の中のイメージやアイデアを、思考の流れが分かるように視覚化したものである。中心となる概念から連想される語句やイメージを、分岐させる形で表す。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・短歌の創作を通して表現力を高めることが学習のねらいである。文学的創作を「なんとなく」といったセンスで行うのではなく、自分の創作過程(学習過程)をメタ認知させることで、一過性ではない表現力を身に付けるよう促す。 ・短歌をつくる理由は、自分が表現したいこと(表現意図)を、焦点化して示すのに適しているからであることを伝える。 ・創作の前段階として、マインド・マップ(※)をつくるよう指示する。 ・創作にあたって、次の要点を必ず踏まえるよう指示する。 <p>【創作の要点】</p> <p>歌謡曲の世界観をより効果的に伝えるために、「心に引っかかることば」や「使いたい(伝えたい)ことば」を用いる。</p> <ol style="list-style-type: none"> ①歌謡曲の何を(どこを)焦点化して伝えたいのかといった表現意図から、<u>具体性の程度</u>を意識する。 ②声に出して読まれた時のことを想定し、<u>リズムや音の響き</u>を意識する。 ③目で見ても読まれた時のことを想定し、<u>表記の妥当性</u>を意識する。 <ul style="list-style-type: none"> ・注意事項として「三十一音で作成する。ただし、『五・七・五・七・七』でなくてもよい(句跨りを許容する)」ことを伝える。 ・共通の歌謡曲をもとに作った短歌を、本校で採用しているクラウドサービス(Classi)のアンケート機能を用いて、提出させる。 ・改善案は、先の要点を踏まえて考えるように指示する。 	<p>[知識・理解] 「行動の確認」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・短歌の創作に適した表現の仕方や語句の使い方などがあることについて理解しているかを確認する。
2 (1単位時間)	<p>○自分の好きな歌謡曲を選ぶ。</p> <p>○好きな歌謡曲の世界観(自分が感じ取ったこと)を短歌で表現する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・事前に候補となる曲を選んでおくように指示する。授業ではスマートフォン等を用いて、個別に歌詞を参照させる。 ・創作にあたり、歌謡曲の歌詞から感じ取ったことを、他者(クラスメイトという同世代の人)に伝えるといった観点から焦点化するよう指示する。 ・Classiのアンケート機能を用いて、選んだ曲名と、創作した短歌を記入させ、提出させる。 ・創作では、複数の短歌をつくるように促すが、提出は一首のみとする。 	<p>[知識・理解] 「記述の確認」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・語句の選び方を工夫し、表現意図が伝わるように短歌を創作しているかを確認する。

<p>3 (2単位時間)</p>	<p>○創作した短歌をグループ内で相互に鑑賞，批評し合う。</p> <p>本時の授業で 取り上げるところ</p>	<p>【グループ鑑賞会(1グループ4人)の手順】</p> <p>①「批評カード」を一人につき3枚ずつ配る。</p> <p>②3枚のカードすべてに自分が創作した短歌を書かせ，それぞれ他のメンバーに渡すよう指示する。自分の手元には他のメンバーのカードがあることになる。</p> <p>③カードに書かれている短歌で，どのようなこと(世界観)を表現したかったのかを考えさせる。</p> <p>④詠み手の生徒にそれぞれ，自分の創作した短歌について，表現意図を説明させる。</p> <p>⑤説明の後，各メンバーが考えたことをディスカッションの形式で伝え合う。</p> <p>⑥最後に「批評カード」のコメント欄に「創作の要点①～③」を踏まえた改善点及び改善案を記述させる。各カードをそれぞれの詠み手に戻すよう指示する。</p> <p>鑑賞会を通して，①～⑥を4セット行うことになる。</p>	<p>[書く能力] 「行動の観察」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・表現の仕方について，意図がより伝わるように，語句の選び方を工夫することにつながる話し合いをしているかを観察する。
<p>4 (1単位時間)</p>	<p>○相互批評で得た助言をもとに，最初に創作した短歌を詠みなおす。</p> <p>○他者からの批評を受け，どのような意図で変えたのかを記述する。</p> <p>○クラス全体で鑑賞会を行う。</p> <p>○単元の振り返りを行う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・グループ鑑賞会での協議及び「批評カード」を通して，より表現意図が伝わる方法について考え，短歌を詠みなおしさせる。 ・ワークシートに詠みなおした短歌とともに，その意図について記述させる。 ・他者からの評価，指摘を受けて，自己の表現をメタ認知することに学習活動の主眼があるため，「素晴らしい作品」をつくることよりも，表現の過程を意識するように促す。 ・提出させたワークシートの中で，指導者が「創作の要点①～③を踏まえ，かつ詠みなおしの変化が大きい(詠みなおした意図が顕著に表されている)短歌」を数首選出し，生徒に紹介する。 ・単元を通して，どのようなことに気付き，どのような力を身に付けたかを文章で記述させる。 	<p>[書くこと] 「記述の分析」 ワークシート</p> <ul style="list-style-type: none"> ・表現の仕方についての批評を通して得たことを，語句の選び方を工夫することに生かし，意図がより伝わる表現として記述しているかを分析する。 <p>[関心・意欲・態度] 「記述の確認」 ワークシート</p> <ul style="list-style-type: none"> ・表現の仕方についての批評を通して得たことを，語句の選び方を工夫することに生かし，意図がより伝わる表現として記述しようとしているかを確認する。

5 評価の事例

(1) 生徒ア～ウの発言（第1次で確認）

「時代」を短歌で表したもののうち、例として取り上げたものに対して

生徒ア：「今だけと雨上がる日を待ち望みそれを信じて今日ドアを出る」というのは分かりやすいけど、印象が薄いな。ここは出発を前にしている人が決意を表す場面だと思うから、それを身体を使った表現に具体化して、例えば「今だけと雨上がる日を待ち望みふるふる震える足をたたく」はどうか。[評価A]

生徒イ：「ふるふる」というところが、音の響きとしても良いね。それをもう少し工夫して、「フルフル」と片仮名で書いてみると、足の震えている様子がよく表されるんじゃないか。[評価A]

生徒ウ：「足をたたく」は鼓舞していることを示すためだろうけど、少しわかりづらいから、「たたく」を他のことばで表せないか考えてみようよ。[評価B]

生徒ア・イは【創作の要点】として示した①具体性の程度や、②音の響き、③表記を踏まえた上で改善案を示しているため、「十分満足できる状況」(A)と評価できる。他方、生徒ウは詠み手の表現意図から改善案を出しているが、要点を踏まえ切れていないため「おおむね満足できる状況」(B)と評価することになる。

(2) 生徒エのワークシート（第4次で確認）[評価A]

歌謡曲で荒井由実の「ひこうき雲」を短歌で表し、グループ鑑賞会での批評を受けた後、次のようにワークシートに記述している。

(初めに詠んだ短歌)

一瞬のきらめき魅せて消え去った 生きていたのは夢か現実か

(詠みなおした短歌)

陽炎があの子を包むゆらゆらと 生きていたのはゆめかうつつか

(意図)

「ひこうき雲」の歌詞からは、早世した人（おそらく十代）の、一瞬の命のきらめきみたいなものを感じ取った。若すぎた死ではあるけれど「しあわせ」と表現していることから、その死は必ずしも否定的なものではないだろうと考え、ひこうき雲まで昇っていくその命を、「きらめき」と表現した。

一方、グループ鑑賞会での批評では、「きらめき」という表現が「ひこうき雲」の真っすぐではあるけれど、輪郭がぼやけている状態と少し合わない、歌詞にある「かげろう」を用いた方がいいのではないかという意見をもらった。また、その状態を「ゆらゆら」と表現した方が命の不安定さを一層表せられるのではないかとも言われた。

それらを参考にしつつ、さらに「命の炎」の感じを出すために「陽炎」と漢字表記し、「ゆらゆら」の「ゆ」の音との響きを意識して、「夢」を「ゆめ」と平仮名表記してみた。

生徒エは、初めの短歌創作で、歌謡曲の世界観として読み取ったことを的確に表現している。それを要点①～③を踏まえたグループ鑑賞会における批評を参考にして、さらに表現意図を効果

的に伝えられる短歌へと詠みなおしをしていることが「意図」の部分から読み取れるため、「十分満足できる状況」(A)と評価できる。

詠みなおしをした短歌が、文芸作品として優れているか否かではなく、ある条件を踏まえて自己の表現をメタ認知し、より高次のものとへと磨き上げているか否かが評価のポイントとなる。

参考文献・資料

- 国立教育政策研究所（2012）『評価規準の作成，評価方法等の工夫改善のための参考資料【高等学校 国語】』教育出版
- 国立教育政策研究所（2021）『「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料（高等学校）国語』
- 俵万智（1993）『短歌をよむ』岩波書店
- 俵万智・一青窈（2010）『短歌の作り方，おしえてください』角川学芸出版
- 文部科学省（2010）『高等学校学習指導要領解説 国語編』教育出版
- 文部科学省（2011）『高等学校学習指導要領』東山書房
- 文部科学省（2019）『高等学校学習指導要領（平成30年告示）』東山書房
- 文部科学省（2019）『高等学校学習指導要領（平成30年告示）解説 国語編』東洋館出版社